

平成29年度事務事業評価シート

取組みコード 5114

区分	イベント	担当課	農政課	作成日
事業名	農林まつり負担金(農林まつり)	開始年度	昭和50年度	予算科目 5.1.3.3.1

1 事業の概要

総合計画での位置づけ	
部	第5部_多彩な産業の活力あるまちづくり
章	第1章_地域農業の促進
節	第1節_魅力ある農業経営の促進
基本施策	4_地域農業・農産物の普及
取組みの基本方向	
根拠法令等	愛川町農林まつり開催規約
目的 (誰・何を対象に、何のために)	町民等を対象に町内で生産される農林畜産物等を紹介し、消費拡大を促すとともに、町の緑の生活環境の向上と緑化思想の高揚を図る。
内容・方法 (何を行っているのか)	町内産農林畜産物の即売をはじめ、農林業を身近に感じ、楽しめる啓発事業として、木工教室、春の草花・種子のプレゼント、来場されたお客様が自ら楽しめる米のすくい取りや、ゴーヤを育ててグリーンカーテンを作る講習会のほか、地元特産品の抽選会、ステージイベントを実施し、町内の農業について宣伝に努める。

2 指標(事業の成果・活動内容等を数字で表します)

本事業が属する総合計画の節の成果指標		指標名		基準年度	平成34年度		
		『農業の振興』について「満足」と感じる住民の割合		27.8%	41.0%		
(A) 総合計画の節の目標を達成するため本事業に求められる成果			より多くの町民が農林まつりに来場していただき、町内の農林業生産物等に触れていただくこと				
(A)の成果をあげられているか測るための指標(成果指標)	増減	指標の説明	項目	基準年度 (平成26年度)	平成27年度	平成28年度	平成29年度
来場者数(人)	増	イベントに来場いただき、町の農林業生産物等に触れていただく人数	計画値		10,000.0	10,000.0	10,000.0
			実績値(見込値)	12,000.0	12,000.0	12,000.0	12,000.0
			達成度※自動計算		120.0	120.0	120.0
(B) 成果指標の目標を達成するため本事業において町が行う活動		多くの方に来場いただくため、さまざまな広報媒体を活用して周知を図る					
(B)の活動状況を測るための指標(活動指標)	増減	指標の説明	項目		平成27年度	平成28年度	平成29年度
周知のための媒体数(件)	増	同左	計画値		6.0	6.0	6.0
			実績値(見込値)		6.0	6.0	6.0
			達成度※自動計算		100.0	100.0	100.0

※ 増減欄は、指標の値について、増加が望ましい場合に「増」、減少が望ましい場合に「減」を記入する。

3 事業費の推移と財源内訳

(E) 平均人件費(円/年) 8,300,000

年 度	基準年度(決算) (平成26年度)	平成27年度(決算)	平成28年度(決算見込)	平成29年度(予算)
(A) 事業費(円)	315,000	365,000	688,000	688,000
(B) 概算職員数(人)	0.250	0.250	0.210	0.210
(C) = (B) × (E) 人件費(円) ※自動計算	2,075,000	2,075,000	1,743,000	1,743,000
(D) = (A) + (C) 総事業費(円) ※自動計算	2,390,000	2,440,000	2,431,000	2,431,000
単位当たりコスト※自動計算	199.2	203.3	202.6	202.6
財源内訳 (円)	特定財源			
	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	その他			
一般財源※自動計算	2,390,000	2,440,000	2,431,000	2,431,000

4 事業の項目別評価(分析)

項 目	判定基準	判定 ※一部自動判定	評価 ※自動判定
妥当性 (公費を投入して実施することが妥当な事業か)	法令等で義務付けられた事業である		B
	民間サービスで同様の事業は実施されていない、市場原理に委ねることができない		
	国や県において実施している事業との重複がない		
	事業開始時から事業目的や町民のニーズの低下や変質がない	○	
	事業・サービスの提供時間帯及び場所は公平に提供されている	○	
	受益に応じた負担は適正である	○	
	事業の実施による効果が不特定多数の人に広く及ぶ性質である	○	
	事業・サービスの対象者の日常生活に必要な不可欠な事業である		
	上記のいずれにも当てはまらない		
有効性 (基準年と比較して成果が上がっているか)	成果指標について平成28年度の目標を達成している	○	A
	基準年度と比較して成果が向上している	○	
効率性 (なるべく費用をかけずに成果を上げているか)	基準年度と比較して費用の縮減ができている (費用の縮減率が成果の向上率以上か)	費用増、成果ダウン	C
有用性 (施策の成果指標の目標達成に貢献しているか)	総合計画の節の目標達成のための本事業の効果	間接的	B
	総合計画の節内での本事業の優先順位	高い	
総合評価 ※自動判定		改善すべき点がある	

5 特記事項

農林まつりの会場設営・撤去に係る負担軽減を図るため、平成28年度より会場設営(テント設置等)を業者委託とし、これに基づき事業費が増額となった。

6 自己評価(担当課)

評価結果	現状維持
理由	一度に、町内産農畜産物の紹介や担い手・参加団体の交流が図られる機会である。
今後の方向性	本年度は5月3日(水・祝)に開催した。 春は夏向けの野菜苗等が販売される時期でもあることから、この販売促進やその他農林畜産物のPR等も含め、今後も5月上旬に開催したい。

7 1次評価(庁内行政評価委員会)

評価結果	改善
今後の方向性に係る意見等	平成27年度以降、費用が増加しているが来場者が増加していないことから、来場者の増加に向けた方策を講じるべきである。

8 2次評価(外部評価:行政改革推進委員会)

評価結果	
今後の方向性に係る意見等	

9 2次評価(実施のない場合は1次評価)を踏まえた対応案(担当課)

ポスターや町広報などの従来のPRに加え、商工観光課と連携して、観光関係団体のホームページで周知を図るなど、PRを強化する。また、来場者の増加に向けてステージイベントの内容について工夫する。

10 町の最終方針(行政改革推進本部会議)

評価結果	改善
理由・改善方針	商工観光課や関係団体と連携してPRを強化することに加え、実施内容を工夫することにより、来場者の増加に努める。